

# 一般質問

## 市民の声を市政に

※ 鬼丸裕史議長は議責上（議事整理権）、  
監査委員の佐藤一議員は申し合わせに  
より一般質問は行っていません。

（文責は、各質問者）

### 一般質問に28人が登壇

#### 市立医療センターの さい帯血活用について



武 幹也  
議員

最近、オリンピック出場候補選手に白血病が発症したとのニュースは大変驚いたところです。一日も早い回復を願って質問させていただきます。へその緒と胎盤に含まれるさい帯血を白血病などの治療に役立てたい。そんな思い、願いが全国に広がり220万人を超える署名や意見書運動などを背景に、1998年のさい帯血移植手術への保険適用となり、翌年には公的さい帯血バンクが設立され、今年で20年の節目を迎えました。本年3月には「改正造血幹細胞移植推進法」が施行されます。これにより、さい帯血事業はどのように変わり、採取実施についても伺います。

#### ○病院事務部長

移植に用いるさい帯血の取り扱いについては、原則国が許可した公的さい帯血バンクでなければ採取、保存、引き渡し等を行ってはならないこ

とになりました。民間のさい帯血バンクでは、あくまでも自己あるいは親族で利用することを目的とした採取、保存、引き渡しだけが認められます。このため、今回の改正であくまでも造血幹細胞の移植用として第三者に提供できる機関は国が指定した公的さい帯血バンクのみとなり、採取実施については、現在すぐには難しいと考えますので、今後の動向等を注視していきたいと考えています。

このほか  
○視覚障がい者の知る権利について

#### 市長の平成31年度 施政方針について



金子 進  
議員

本定例会の冒頭に市長から平成31年度に向けた施政方針について説明がありました。平成30年度から第2次春日部市総合振興計画が始まり、「各分野において、さまざまな取り組みを積極的に行い、また、将来の春日部市を見据えた事業を実施することがで

きた」とのことですが、市政運営は中長期的にしっかりと計画性を持って進められるべきであり、そういった意味では来年度以降も基本的な市政運営の骨格は第2次春日部市総合振興計画に沿って進めていくことになると思います。

そこで、子育てや健康長寿まちの拠点整備や経済の発展安心・安全や持続可能なまちといった分野において、さらに高い成果を上げていただくことを期待し、新年度に向けた市長の意気込みを伺います。

#### ○市長

平成31年度は春日部市にとって未来に向けて大きく動き出す新たなステージの幕開けの年です。春日部駅付近連続立体交差事業や、北春日部駅周辺地区土地区画整理事業を初めとするさまざまな事業において、市民の皆さまの目に見える形でまちづくりの動きを実感していただけるよう、まい進してまいります。そして、春日部市のさらなる飛躍のため、市民の皆さま、議員の皆さまの力を結集させ、「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」の実現に向けて、誰からも「選ばれるまち」を築いてまいります。

**職員の未払い超過勤務手当  
(残業手当)は早急に支給を**



松本 浩一 議員

昨年11月、市職員労働組合に、職員から「私の職場では、残業時間請求の調整が行われており、実際に働いた時間よりも大幅に削減した時間を請求するように代々引き継がれてきた。そのため、削減される残業手当は職員によって違うが、4割カットになることもある。その金額は自分自身のカット分でも年間30万円以上にもなる」という相談がありました。組合が事実関係を確認すると、平成23年度から調整を行った資料があり、組合員の相談内容は事実そのものでした。また、組合が行った試算では、平成28年度の生活保護担当職員の残業未払い合計は600万円以上に達しました。

人手不足によって、残業が常態化している部課があります。これは法令違反です。未払いの残業手当は早く支払うこと、必要な職員を増員する

こと、二度とこのようなことが起こらないよう改善する必要があると思いますが、市の考えを伺います。

○副市長  
さまざまな方面から徹底的に調査してまいります。

○市長

超過勤務手当の取り扱いについては、今後の調査を踏まえ適正に対応し、また、関係法令等に基づき適正な勤務管理と時間外勤務の削減を図ってまいります。

このほか  
○子どもたちの元氣、働く市民の安心を守る学童保育を



残業の常態化 (イメージ)

**市長の平成31年度  
施政方針について**



中川 朗 議員

平成30年12月に閣議決定された、平成31年度予算編成の基本方針では、アベノミクスの推進により、日本経済は大きく改善している。デフレではない状況を作り出す中で、GDPは名目、実質とも過去最大規模に拡大した。また、企業収益は過去最高を記録するとともに、就業者数の増加、賃上げなど、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環は着実に回りつつあるものとしていきます。引き続き、「経済再生なくして財政健全化なし」を基本とし、戦後最大の600兆円経済と財政健全化目標の双方の実現を進めることとしています。自治体の政策への直接的な影響としては、例えば、少子化対策などが大きく関わってくると思われまます。このような経済財政政策や社会保障制度改革などの国の動きに対しては、市としては平成31年度予算編成

の中で、どのような予算配分を行ったのか伺います。

○財務部長

平成31年度の予算は、国の動向を見据えつつ、本市の将来像である、「つながるにぎわう すまいるシティ 春日部」の実現に向け、第2次春日部市総合振興計画に示されている、「子育て・健康長寿」、「まちの拠点整備・経済発展」、「安心・安全持続可能なまち」の3つの重点プロジェクトに係る事業に優先的に予算を配分し、着実に実施していくための予算編成となるよう取り組みました。

**誰一人取り残さない社会  
を目指して (SDGs)**



荒木 洋美 議員

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の開発目標で、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成され「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指して世界

中で努力することが約束されました。日本でも政府内にSDGs推進本部が設置され、その達成に向けた取り組みの推進が重要とされています。

SDGsの理念は公明党の「人間主義」の理念と合致し、国際社会の隅々にまで浸透するよう国会議員と地方議員が協力し、推進しています。

そこでSDGsに対する市の認識を伺います。

○副市長

SDGsの17の目標と市政運営の目標は大いに関連があり、ともに普遍的目標として率先して取り組むべきものと考えています。また、地域全体の底上げや、自治体としての持続可能性を高める基盤づくりにもなると考えています。今後、どのような取り組みがこの地域の変革につながるか、持続可能なまちづくりにつながるような効果があるか、できるだけ早期に検討を進め、具体的に政策や事業に反映させていきたいと考えています。

このほか

○消防本部におけるさらなる女性消防吏員の活躍推進について

○人と動物が幸せに暮らせるまちづくり

**奨学金返還支援制度の創設について**



栗原 信司  
議員

教育は国家百年の大計と昔から言われるように、子どもたちは未来からの使者であり、大切に育てていくのは大人の責務と思うところです。国や県などでは教育機会の均等、充実を図る観点や、やる気はあっても経済的な問題から進学を断念する子どもたちのためにさまざまな教育支援策、援助策を用いております。

卒業後の奨学金の返済に關し、Uターン・Iターンという定住促進策や市内の企業に就職した場合、奨学金の返済免除や、返済金に対して補助を行っている自治体があります。春日部市としても取り組むことはできないものでしょうか。今、早急に取り組めば、県内初の事業と言えるようなレベルの取り組みとなります。

○学務指導担当部長  
本市の奨学金貸付制度は、貸し付けを受けた方からの返済金を原資として運用して

ることから、本市において奨学金返還支援制度を実施するためには運用財源を新たに確保する必要があります。

そのため、まずは既に実施されている他の自治体の実施状況や、その効果等を十分に調査し、検証する必要があるものと考えています。その上で本市の実情に合った導入方法等を関係部署と研究していきたいと考えています。

このほか

○首都圏外郭放水路の見学ツアーについて

○八木崎駅付近の利便性向上について

**未来を育む奨学金について**



会田 幸一  
議員

春日部市が今年度からスタートさせた「未来を育む奨学金事業」は夢を応援すると同時に、子どもたちの可能性やチャレンジ精神を育む上で非常に効果的であり、画期的な事業であると思います。そこで以下伺います。①この事業の目的と従来の奨学金貸付制

度との違いについて、②春日部市の特徴などを含めた事業概要について、③今後の事業展開に関する市長の考え。

○学務指導担当部長

①学業、スポーツ、芸術などの分野を問わず、日ごろから思い描いている挑戦したい、実現したい夢や希望に関する提案に対し、奨学金を交付して応援することを目的としています。従来の制度との違いは、返済を求めず、事業の取り組み実績に基づき交付する制度としていところ。②複数年にわたる事業を行う場合は最大で5年間の継続的な支援を可能としていること、奨学金の額が1人もしくは1グループ当たりの上限額を100万円としています。

○市長

③未来を担う子どもたちは、春日部市の宝であり、希望です。子どもたちの未来のため、必要な事業を継続的に進め、今後もこの奨学金制度の充実と安定的な運用を図るとともに、チャレンジ精神の醸成を図ってまいります。

このほか

○春日部駅東口におけるリノベーションまちづくりについて

**春日部市総合雨水対策アクションプランの策定を**



今尾 安徳  
議員

昨年の建設委員会行政視察において東大阪市総合雨水対策アクションプランについて学び、市長のトップダウンで、全庁横断的な取り組みとしてこのアクションプランを策定したとお聞きしました。

石川市長は一昨年の市長選公約で治水対策強化を掲げ、100ミリ安心プランとともに、特に栄町2丁目の浸水被害解消も示されました。第2次総合振興計画にも市民が安心して生活できるよう、浸水被害を軽減する目標を掲げ、誰もが住んでみたい、住み続けたいと思う、誰からも選ばれるまちを築いていくと決意を述べられています。浸水ゼロのまちを目指すが誰かが住み続けたいまちにつながるのではないかと思います。この全庁横断的なアクションプラン策定の考えを伺います。

○市長  
国家プロジェクトとして、

平成18年度の世界最大級となる首都圏外郭放水路の整備により、本市はもとより、周辺地域の浸水被害は大きく改善されましたが、さらなる浸水被害の軽減を図るため、市としてもこれまでに県内初となる100ミリ安心プランの登録など、さまざまな治水対策に取り組んできました。今後にも本プランを推し進めるとともに、プランに含まれない治水対策についても総合的に取り組んでいきます。

このほか

○国民健康保険税、子どもの均等割は減免を



栄町2丁目の浸水被害

## 外国人に対する行政サービスについて



卯月 武彦 議員

今年4月から出入国管理法が改正され、外国人労働者やその家族が一層増加することが予想されます。そこで以下伺います。①市役所の窓口でどのように対応しているのかまた、外国人相談窓口を設置すべきだと思うが市の考えは、②小中学校では日本語を話せない外国人の子どもに対してどう対応しているか、また、支援員を配置して日本語や日本の習慣等、きめ細かな指導を行う必要があると思うがどうか、③市立医療センターでも外国人に対応した医療コーナーネーター等、体制の整備が必要ではないか。

### ○市民生活部長

①市のホームページを3ヶ国語に対応させ、各担当課でもさまざまな手法でコミュニケーションを図っています。また、対応が難しい言語は埼玉県外の外国人総合相談センター埼玉による電話通訳や春日部

## 市長の平成31年度施政方針について



小久保博史 議員

基本目標4「環境・防災・生活分野」から伺います。昨年の西日本での豪雨では、甚大な被害が広範囲に発生したことは記憶に新しいところです。特にテレビ等でも報道されていた岡山県倉敷市真備地区の浸水範囲は、ハザードマップで示された浸水想定区域とおおむね一致していたと聞いていますが、この地区でも多くの方が犠牲になってしまいました。真備地区におけるアンケート調査の結果では、ハザードマップの存在を75パーセントの方は知っていたが、内容を理解していた人は24パーセントだったとのこと。このことから、災害ハザードマップは被害の軽減を図るために必要なもので、日頃から活用しておくべきものだと認識しています。そこで、防災ハザードマップの改定について、なぜこのタイミングなのか、改定すべききっかけが



いろいろな国から来た小学生 (イメージ)

市国際交流協会においても語学堪能な方に通訳ボランティアとして登録いただき、事前予約があれば可能な範囲で通訳を行うなど対応しています。○学務指導担当部長  
②学校の要望に応じて日本語指導教員を派遣し、言葉の学習だけでなく、安心して学校生活を送ることができるよう支援しています。○病院事務部長  
③全く日本語が話せない方はまれですので、現時点で導入は考えていません。このほか  
○二代表制の認識について

あったのか伺います。○市長公室長  
近年の気象変化により、経験したことのない降雨に伴う災害が頻発していることから、河川の洪水による浸水想定を従来の計画降雨によるものから想定最大規模降雨に見直しされ、平成28、29年に、利根川、江戸川、荒川において、洪水時の浸水想定が変更されました。また、県の浸水想定も見直し中であることから、完了後、速やかに最新データを反映させた災害ハザードマップを提供できるよう、平成31年度に着手するものです。

## 「春日部市未来を育む奨学金」について



永田 飛鳳 議員

この制度は、子どもたちの夢を扱う繊細さが必要な事業だと考えています。子どもが描いた夢を、事業として子どもたち自身が提案する。夢を持つことは大事ですし、春日部独自の奨学金事業として面白い取り組みかと思われ。ただ、その提案が採用される、

不採用になる、という、夢に対して優劣をつけるのはいかがなものなのか。私が初めてこの事業内容を聞いて素直に感じたことです。

「春日部市未来を育む奨学金」は今年度からの実施で、改善点は多くあるように感じます。制度のあり方としては検討が必要だと思いますが、今後の展開として、来年度以降、市長はこの事業をどのように運用していくのでしょうか。そのお考えをお伺いいたします。

○市長  
「春日部市未来を育む奨学金」は、今年度からスタートした事業です。この事業を通じて、子どもたち一人一人が自らの可能性を信じ、そして夢や希望に向かって積極的に挑戦していくこと、そのこと自体が、この事業を実施する最大の目的です。

そのため、子どもたちの輝かしい未来を応援し、また、夢を実現していけるよう、この奨学金制度を継続的かつ安定的に運用してまいります。このほか  
○オリンピック・パラリンピックで春日部を盛り上げるために